

水沢JC
- 岩手県 -



インディアン旗少年野球大会。



姉妹JCである永和JC(台湾)の皆さんと。

『We Believe!』の真つ先に見るページが『Beautiful Lady』、こんな私が寄稿する事をご容赦願います。水沢JCは認証番号229番、昭和38年に岩手ブロックでは4番目のLOMとして誕生しました。本年47年目を迎えますが、LOM誕生を遡ること5年前の昭和33年から現在に至るまで主催として継続されている事業があります。旧水沢市内(現在奥州市水

沢区)の全小学生を参加対象にしたインディアン旗少年野球大会は歴史ある事業ゆえに、シニア会員を含め、メンバーの殆どがこの少年野球大会を経験しており、少年期から水沢JCの存在を意識することになります。また姉妹JCには永和JC(台湾)と二十数年來の交流を重ね、昨年シニア会員も参加し奥州・永和両市の子どもたちを音楽の競演によって交流させる事業を地元開催しました。ちょうど時を同じくした昨年6月と7月、二度にわたって岩手中部を震度6の地震が襲い、震源に近い奥州市衣川区は甚大な被害を受けました。無残な姿になった家屋と閉ざされたライフライン、そして恐怖に打ち

ひしがれた子どもたちの精神は想像を絶するものでした。こんな時JCができる事は何か? 災害救援も重要でしたが、さいわい政府の災害救援活動が迅速に配備されましたので、LOMとしては子どもたちの心のケアを、シニア会員は風評被害の排除へ活動支点を置く事にしました。08年度千田理事長が心の支援として縁日の模擬店を被災地小学校で実施することを取り戻すために、まずは会員全員が笑顔で接したのです。これらLOMの活動の骨子は未来を担う青少年の健全育成にあります。それゆえに、あの時の野球大会や思い出深いイベントを主催したのは水沢JCだ



写真提供:胆江日日新聞社
岩手中部・宮城地震。



岩手中部・宮城地震で被災した子どもたちの心のケアを目的に、小学校で縁日を開催。

つたと言う事を勧誘時に思い出してもらえようです。09年安里会頭は30%の会員拡大を掲げていますが、これからも子どもたちが「将来はJCに入りたい」と思うような活動が伝承されるようにシニアクラブとして支援していきたいと思っています。

日本JCシニア・クラブ
岩手ブロック担当幹事

佐々木洋日兒

笑顔がつなぐ
子どもたちとの絆。
将来のJCの発展へも
尽力していきます